



my point of view



LEICA MP

※本使用説明書の内容の一部あるいは全ての無断転載、複写、複製を禁じます。
©ライカカメラジャパン株式会社

ライカ MP 使用説明書

ライカカメラジャパン株式会社

〒100-0006
東京都千代田区有楽町1丁目7番1号
電話 03-5221-9501

0503-TS3000





製品に貼付されているCE認証は、現行のEUガイドラインにおける基本条件に準拠していることを証明するものです。

警告

最新の電子機器は静電気に対して敏感です。例えば、合繊繊維のカーペットの上を歩くだけで、人体は数千ボルトもの静電気を帯電します。このような状態でライカ製品に触れると、静電気が放電される恐れがあり、特にカメラが導電性物質上に置かれている場合、その危険度は高くなります。静電気がボディーに放電されるだけでは、電子回路に影響はありません。しかし、カメラに保護回路が内蔵されているとはいえ、安全上の理由から、できるかぎりバッテリーや背面パネルなどの外部接点には手を触れないでください。

接点の掃除には、合成繊維の眼鏡用マイクロファイバークロスではなく、綿やリネン等の布を使用してください。接点に触れる前に、暖房用の放熱器や水道管(導電性があり、アースされている物)などに触れて静電気を完全に放電するようにしてください。

カメラを保管する際には、接点が汚れたり酸化したりすることがないように、乾燥した場所に密閉して保管してください。

ライカカメラ社のホームページ

各種製品、ニュース、イベント、会社情報等に関する最新情報は、ライカカメラ社のホームページにてご覧いただけます。

<http://www.leica-camera.com>

ライカ・インフォメーションサービス

ライカ製品に関する技術的な疑問等がございましたら、ライカ・インフォメーションサービスがお電話、お手紙、ファックス、電子メールにてお答えいたします。

Leica Camera AG

Information Service

Postfach 1180

D35599 Solms Germany

Tel: +49(0)6442 208 111

Fax: +49(0)6442 208 339

e-mail: info@leica-camera.com

ライカ・カスタマーサービス

ライカ製品のメンテナンスや修理が必要な場合は、下記のカスタマーサービスセンター、または各国のサービス機関までお問い合わせいただく(住所録に関しましては、保証書をご覧ください)、お近くのライカ正規代理店までお尋ねください。

Leica Camera AG

Customer Service

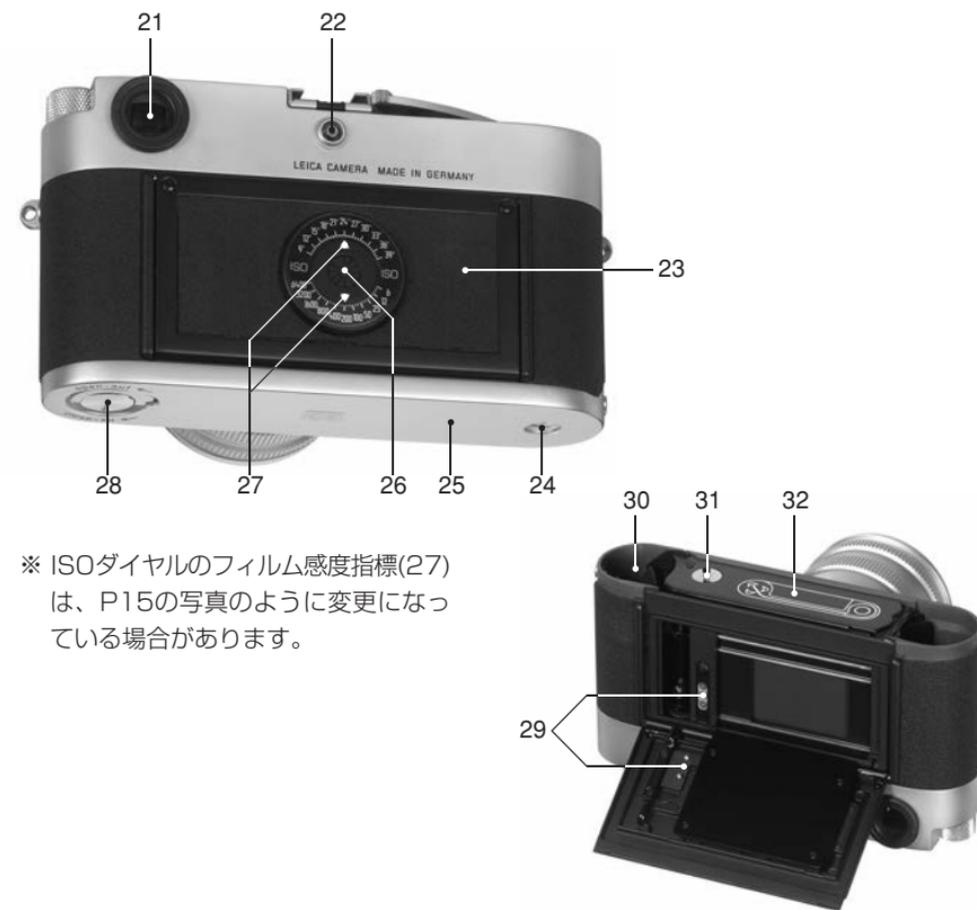
Oskar-Barnack Str. 11

D35606 Solms Germany

Tel: +49(0)6442 208 189

Fax: +49(0)6442 208 339

E-Mail: customer.service@leica-camera.com



※ ISOダイヤルのフィルム感度指標(27)は、P15の写真のように変更になっている場合があります。

はじめに

このたびは、ライカMPをお買い求めいただき、誠にありがとうございました。ライカ独自のレンジファインダーカメラをお選びになられたことは、素晴らしい選択です。

ライカMPをお使いになり、失敗のない撮影と写真の楽しみを味わっていただければ、と願っております。

この高性能カメラの可能性を十分に活用していただくためにも、あらかじめこの使用説明書をお読みください。

目次

警告

はじめに	1
各部の名称	4
ファインダー内の表示	5
携帯ストラップの取り付け方	5
電源	7
- 互換性のあるバッテリー	7
- バッテリーの装填と交換	7
- バッテリーチェック	8
- 電池の取り扱いについて	9
シャッターボタン	10
シャッタースピードダイヤル	10
巻き上げレバー	11
フィルムの交換	12
- カメラの開け方	12
- フィルムの装填	13
- カメラの閉じ方	13
- 1コマ目への送り	14
- フィルムの巻き戻しと取り出し	14
フィルム感度の設定	15
- フィルム感度の設定範囲	16

レンズの取り付け	16
レンズの取り外し	18
ライカMレンズの構造	18
- フォーカシングリング	19
- 絞りリング	19
- 被写界深度目盛り	20
- レンズフード	20
- 旧型レンズの使用	20
カメラの正しい構え方	21
ブライトフレームファインダー	22
フレームセクター	24
ピント合わせ	26
- 二重像合致式ピント合わせ	26
- スプリットイメージ式ピント合わせ	26

露出の設定	28	-ライカビットM	44
-露出計をONにする	28	-着脱式クランク	44
-シャッタースピードと絞りをセットする	29	-ハンドグリップM	45
-バルブ設定／露出計をOFFにする	30	-ケース	45
-露出計の測光範囲	30	カメラとレンズのお手入れについて	46
-測光範囲外警告	30	索引	48
-測光ダイヤグラム	31	テクニカルデータ	50
-ファインダーの測光範囲	32／34～35	その他のライカ製品	52
-露出の設定についての注意	36	-スライドプロジェクター	52
フラッシュモード	38	-双眼鏡とスポッティングスコープ	52
-互換性のあるフラッシュユニット	38	ライカアカデミー	52
-フラッシュユニットの取り付けと接続	39	ライカカメラ社のホームページ	53
ライカMPのシステムアクセサリ	40	ライカ・インフォメーションサービス	53
-交換レンズ	40	ライカ・カスタマーサービス	53
-フィルター	40		
-レンズキャリアーM	41		
-ビューファインダー21／24／28mm	41		
-ビューファインダー			
マグニファイアーM 1.25x	42		
-視度補正レンズ	43		
-ライカモーターM	43		

各部の名称

1. ベースプレート固定ピン
2. バッテリーカバー
3. レンズ着脱ボタン
4. 携帯ストラップ吊り環
5. 巻戻し解除レバー
6. フィルムカウンター
7. シャッターリリースボタン
8. ケーブルリリース用ねじ穴
9. 巻き上げレバー: フィルムの巻き上げとシャッターチャージ用 (撮影時は予備位置にセット)
10. シャッタースピードダイヤル: クリックストップ式
 - マニュアル設定 1秒~1/1000秒
 - フラッシュ同調速度 1/50秒
 - 長時間露出/露出計OFF **B/ OFF**
11. 距離計窓
12. a. アクセサリーシュー
 - b. フラッシュ撮影用中央接点 (シンクロ接点)
13. ブライトフレーム採光窓
14. ファインダー窓 (明るい光の中でもLEDの視認性を高める反射板付き、ファインダー倍率を刻印)
15. 巻き戻しノブ
16. 固定リング
 - a. フォーカシング指標
 - b. レンズ着脱用指標 (赤)
 - c. 被写界深度目盛り
17. フォーカシングリング
18. 絞りリング
19. 絞り指標 (白)
20. フレームセクター
21. ファインダー窓
22. ケーブル付フラッシュユニット用シンクロソケット
23. 裏カバー
24. 三脚取り付け穴、A 1/4 DIN 4503 (1/4インチ)
25. ベースプレート
26. フィルム感度ダイヤル (ISO 6~6400)
27. フィルム感度指標
28. ベースプレート固定トグル
29. フィルム感度用電気接点
30. 巻き取りスプール
31. モータードライブ連結軸
32. フィルムの入れ方についての説明図

ファインダー内の表示

A. LED (発光ダイオード)

3点LED (▶ ● ◀):

- 露出バランスを表示
- 測光範囲外警告 (左 ▶)

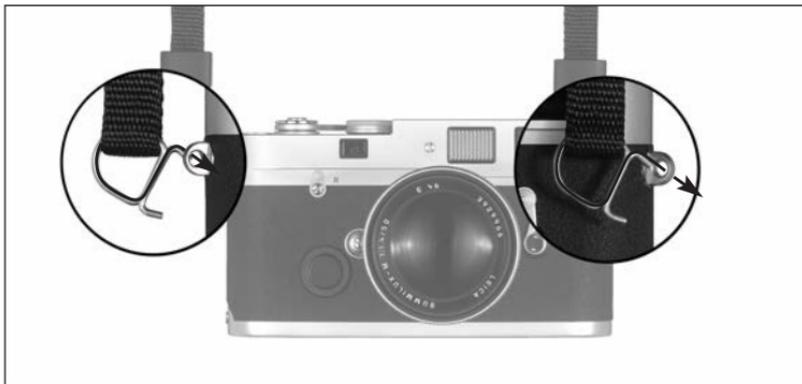
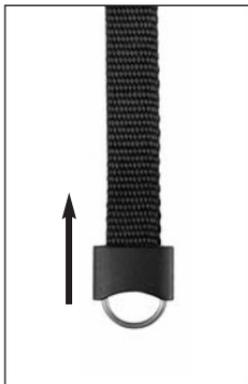
バッテリーマーク:

- バッテリー警告表示

B. ブライトフレーム (例: 50mm と 75mm)

C. 測距範囲

携帯ストラップの取り付け方



電源

ライカMPでは、露出計を作動するために1.5Vの酸化銀ボタン電池2個、または3Vのリチウム電池(DL1/3N)が1個必要です。

リチウム電池は、長期間保存しても容量がほとんど低下しません。そのため、カメラをあまり使用しない場合や、予備に携帯する場合には、リチウム電池が最適です。

互換性のあるバッテリー

酸化銀ボタン電池		リチウム電池	
デュラセル	D357 (10L14)	デュラセル	DL1/3N
エバーレディー	EPX76	コダック	K58L
コダック	KSX76	フィリップス	CR1/3N
マクセル	SR44	Ucar	2L76
ナショナル	SR44	Varta	CR1/3N
パナソニック	SR44		
フィリップス	357		
Ray-o-vac	357		
ソニー	SR44		
Ucar	EPX76		
Varta	V76PX		



バッテリーの装填と交換

1. バッテリー室カバー(2)を反時計方向に回して、取り外します。



2. きれいな布で電池の酸化膜を拭き取ります。
3. (表示どおり) プラス極 (+) を上に向けて、電池をバッテリー室カバーのホルダーに入れます。
4. 次に、電池を入れた状態で、バッテリー室カバーを時計方向に回して元に戻します。
5. 電池を取り外すには、逆の手順に従ってください。

室温で、撮影ごとに14秒間測光した場合、バッテリー寿命は36枚撮りフィルム約100本、枚数にして約3,600枚です(弊社試験規格による)。

バッテリーチェック

露出バランス(A)だけでなくバッテリーマークのLEDも点灯した場合は、まもなく電池を交換する必要があります。ただし、この時点ではまだ、露出計は正確に作動します。

電池が切れかかっている、カメラの露出制御が正確に機能しなくなると、シャッターボタンを半押ししている間、バッテリーマークだけが点灯し、やがてファインダー内の表示がすべて消灯します。

このような場合には、目測か単体の露出計を用いて露出を設定することで、撮影を続けることができます。

注意

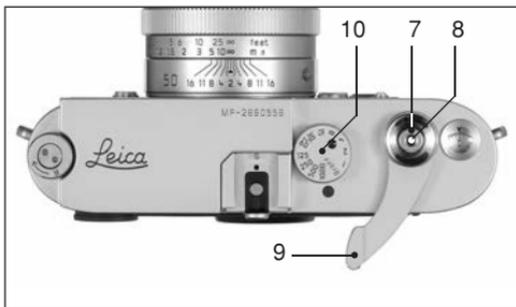
電池の表面が酸化すると、電子回路が遮断してLEDが消灯する恐れがあります。このような場合には、電池を取り外して、清潔な布で酸化膜を拭き取ってください。必要に応じて、カメラの内部端子もきれいにしてください。

電池の取り扱いについて

- 新しい電池と古い電池や、製造メーカーや出力の

異なる電池を一緒に使用しないでください。

- バッテリー端子は常にきれいにしておいてください。
- 電池の焼却、再充電、分解、過熱等は、絶対にお止めください。
- 使用済みの電池はできるかぎり早急に取り外してください。電池には環境に有害な物質が含まれていますので、一般のゴミと一緒に廃棄しないでください。
- 使用済みの電池を正しくリサイクルするために、取扱店までお持ちいただくか、特殊ゴミとして回収ボックスに投入してください。
- 長時間カメラを使用しない場合は、電池を取り外してください。
- 電池は涼しい乾燥した場所に保管してください。



シャッターボタン

シャッターボタン(7)には作動ポイントがあります。シャッターボタンを作動ポイントまで軽く押すと、シャッターがチャージされていれば、露出計が作動します。シャッターボタンから指を離れた後も、測光システムとファインダー内の表示は約14秒間作動を続けます。詳しくは「露出の設定」(p.28)をご覧ください。

シャッターボタンをさらに押し込むと、シャッターはリリースされます。

シャッターボタンは、カチャと音がし、シャッターが切れるまで、静かに軽く(急に力を入れずに)押ししてください。

シャッターボタンには、標準タイプのケーブルリリース穴(8)が備わっています。

シャッタースピードダイヤル

シャッタースピードダイヤル(10)を用いて、シャッタースピードを1/1000秒~1秒に切り替えることができます。オレンジまたは赤¹⁾で印された⚡は、フラッシュ同調速度の1/50秒を示します。また、同じくオレンジまたは赤¹⁾で印された **B/OFF** は、次のふたつの機能を兼ね備えています：

- 露出計をOFFにする
- シャッタースピードダイヤルを **B/OFF** にセットすれば、シャッターボタン(7)を押している間、シャッターは開いたままになります(長時間露出)。シャッタースピードダイヤルはクリックストップ式です。ただし、どの位置にもロックされません。

1) ⚡と **B/OFF** は、よく見えるようにブラックローム仕上げではオレンジ、シルバークローム仕上げでは赤で印されています。

注意

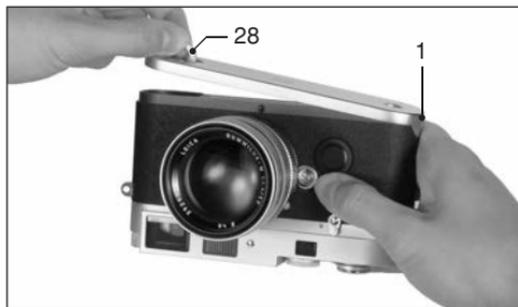
中間速度は使用できません。

シャッタースピードダイヤルは**1000** と **B/OFF** の間で停止します。そのため、他の速度に切り替えるには、**1000**からはダイヤルを反時計方向、**B/OFF**からは時計方向に回してください。

カメラをバッグなどに入れて持ち運ぶときや、長時間使用しない場合は、ダイヤルを **B/OFF** にセットしてください。

巻き上げレバー

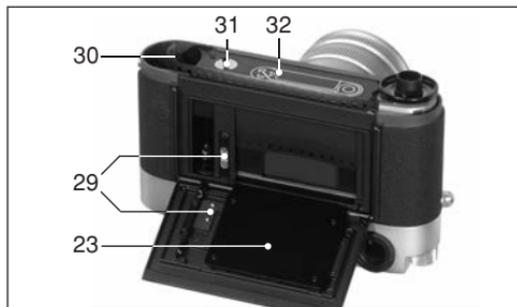
巻き上げレバー(9)を回すと、フィルムが1コマ分送られて、シャッターがチャージされ、フィルムカウンターは自動的に1目盛り進みます。フィルムを巻き上げるには、レバーを右へ止まるまで回します。また、小刻み巻き上げも可能です。フィルムを素早く巻き上げるには、巻き上げレバーを引き出し、あらかじめ「予備位置」にセットしておいてください。



フィルムの交換

フィルムを交換するには、巻き戻しノブ(15)を矢印の方向へ静かに回して、フィルムが入っていないことを確かめてから、交換を始めてください。少しでも抵抗があれば、フィルムはまだカメラに入ったままです。このような場合には、「フィルムの巻き戻しと取り出し」(p.14)の説明に従って、作業を続けてください。

ベースプレートが上を向くように、カメラを持ちます。



カメラの開け方

1. ベースプレート(25)の固定トグル(28)を持ち上げます。
2. 固定トグルを左に回します。
3. ベースプレートを取り外します。
4. バックドア(23)を開けます。

注意

バックドアを開けると、バックドアと本体の裏側に、フィルム感度を測光システムに伝える3つの電気接点(29)が見えます。金メッキされた電気接点は腐食に強く、汚れにくいために、特別なお手入れは必要ありません。

ただし、フィルムを交換する際には、接点を汚したり、接点に雨水が直接触れたりしないようにしてください。



フィルムの装填

1. フィルムカートリッジを右手に持ち、フィルム室にカートリッジを半分ほど入れてください。
2. 説明図(32)に示されているように、フィルムの先端部を手にとって、巻き取りスプール(30)に差し込みます。
3. 次に、カートリッジとフィルムの先端部を、指先でカメラ内へ慎重に押し込みます。

注意

既製品のフィルムは必ず先端部が細くなっています。フィルムの先端部を引き出しすぎた場合でも、巻き取りスプールから多少はみ出した程度であれば、カメラの機能に支障をきたすことはありません。ただし、気温が0℃を下回るような状況では、説明図

に従って、フィルムを正確に装填してください。フィルムが巻き取りスプールからはみ出してしまうと、その部分が凍りついて折れてしまう恐れがあります。

警告

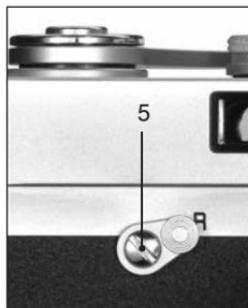
ベースプレートは、カメラに取り付けられた状態で、フィルムを正しい位置に装填するように設計されています。カメラを開けた状態で、フィルム送りを確認しないでください。

カメラの閉じ方

1. バックドアを閉めます。
2. ベースプレートをカメラの固定ピン(1)に引っ掛けます。
3. ベースプレートを閉じます。ベースプレートが所定の位置に収まるように、バックドアがきちんと閉じられているかどうか確認します。
4. ベースプレートを固定トグルでロックします。

1コマ目への送り

1. 巻き上げレバー(9)を回して、フィルムを次のコマまで送ります。シャッターをリリースしてください。
2. 次に、巻き戻しノブ(15)を矢印の方向へ静かに回して、フィルムのとるみをなくします。もう一度、巻き上げレバーを回したときに、巻き戻しノブが矢印と反対の方向へ回転すれば、フィルムは正しく送られています。
3. 最後にもう一度、シャッターをリリースし、さらにもう一度巻き上げレバーを回します。このとき、フィルムカウンター(6)は **1** を示します。フィルム感度を確認し、セットすれば、カメラの準備は完了です(フィルム感度の設定について、詳しくはp.15以降をご覧ください)。



フィルムの巻き戻しと取り出し

最後のコマまで撮影すると、巻き上げレバーは動かなくなります。フィルムを取り出す前に、必ずフィルムをフィルムカートリッジへ巻き戻してください。

フィルムを巻き戻すには

1. 巻き戻し解除レバー(5)を **R** にセットします。
2. 巻き戻しノブを引きあげます(最大11mm)。
3. 巻き戻しノブを時計方向(矢印の方向)に回します。少し抵抗を感じた後、巻き戻しノブをそこからさらに少し回すと、フィルムは巻き取りスプールから離れます。

4. ベースプレートを開きます。
5. バックドアを開きます。
6. フィルムカートリッジを取り出します。

長尺フィルムを使用するときなど、フィルムがフィルムカートリッジのスプールにうまく付着していないと、フィルムの端がスプールから外れてしまう恐れがあります。このような場合には、巻き戻しノブを回してもフィルムは空回りします。

フィルムを取り出すには

1. 光を遮断した部屋で、カメラのベースプレートを取り外します。
2. カメラが下向きになるように持ちます。
3. フィルムがカメラからこぼれ落ちて、掴み出すことができるようになるまで、巻き上げレバーをゆっくりと数回回します。必要に応じて、カメラを手のひらに当てて軽く叩いてください。



フィルム感度の設定

フィルム感度ダイヤル(26)を用いて、フィルム感度を切り替えることができます。設定範囲はISO6～6400です(ISO感度とは、フィルムの感光度を示す国際表示です)。

フィルム感度をセットするには、ダイヤルを回して、お望みの設定値をフィルム感度指標(27)に合わせてください。

次のようなセッティングが可能です。

スケール	ISO (ASA/DIN)
6	6/9°
-	8/10°
-	10/11°
12	12/12°
-	16/13°
-	20/14°
25	25/15°
-	32/16°
-	40/17°
50	50/18°
-	64/19°
-	80/20°
100	100/21°
-	125/22°
-	160/23°
200	200/24°
-	250/25°
-	320/26°
400	400/27°
-	500/28°
-	640/29°
800	800/30°
-	1000/21°
-	1250/32°
1600	1600/33°
-	2000/34°
-	2500/35°
3200	3200/36°
-	4000/37°
-	5000/38°
6400	6400/39°



レンズの取り付け

1. レンズの固定リング(16)を握ります。
2. レンズの赤い着脱指標(16b)を、カメラの着脱ボタン(3)に合わせます。
3. そのまままっすぐ直角に、レンズをはめ込みます。
4. レンズを少し時計方向に回すと、カチッと言う音がして、レンズは所定の位置にロックされます。



レンズの取り外し

1. レンズの固定リング(16)を握ります。
2. カメラの着脱ボタン(3)を押します。
3. レンズの着脱指標(16b)がカメラの着脱ボタンとまっすぐに並ぶまで、レンズを左に回します。
4. そのままゆっくり、カメラからレンズを取り外します。

注意

フィルムが入った状態でレンズを取り外すと、シャッターから直射日光が侵入し、フィルムに感光する恐れがあります。レンズ交換は、ご自分の影で光を遮るなど、できるだけ光の強い場所を避けて行ってください。



ライカMレンズの構造

ライカMレンズには、フォーカシング指標(16a)、レンズ着脱指標(16b)、被写界深度目盛り(16c)の付いた固定リング(16)、回転式のフォーカシングリング(17)、絞り指標19の付いた絞りリング(18)が備わっています。

フォーカシングリング

フォーカシングリング(17)からは、撮影距離が読み取れます。また、フォーカシングリングと被写界深度目盛り(16c)からは、被写界深度が読み取れます。

フォーカシングについて、詳しくは「ピント合わせ」(p.26)をご覧ください。

絞りリング

絞り値は国際的に標準化されており、レンズを1段(1絞り)絞り込めば、フィルムに達する光の量が半分になるように設定されています。絞り1段は、シャッタースピードダイヤル(10)の1段に相当します。シャッタースピードダイヤルと同じように、絞りリング(18)にも目盛りごとにクリック感があります(大部分のレンズには、目盛りと目盛りの間にもクリック感があります)。そのため、少し慣れさえすれば、暗い場所でも絞りをセットすることができます。絞りリングの回転方向は、ファインダー内の3点LEDに対応しています。

例えば、左の三角LED▶が点灯した場合、絞りリングを矢印の方向(右)に回すと、適正露出に必要なより大きな(開いた)絞り(数値の小さい絞り値)が、レンズにセットされます。

適正露出の設定について、詳しくは「露出の設定」(p.28)をご覧ください。



例えば、ライカ・ズミルックスM f1.4 / 50mmレンズを5mの距離にセットした場合、被写界深度はf4で約4～8mになります。また、同じ距離にセットしたままf11まで絞り込んだ場合、被写界深度は3～20mになります。

被写界深度目盛り

焦点を合わせた距離にある被写体が、最も鮮明に再現されます。鮮明度は被写体の前後で徐々に低下しますが、写真では、ある一定の範囲が鮮明に再現されます。この範囲のことを被写界深度といいます。被写界深度は、撮影距離、レンズの焦点距離（撮影距離と焦点距離によって、撮影倍率が決まります）、絞りの大きさなどによって決まります。絞り込む（数値の大きい絞り値をセットする）と、被写界深度は深くなり、絞りを開く（数値の小さい絞り値をセットする）と、被写界深度は浅くなります。被写界深度の範囲は、撮影距離に応じて被写界深度目盛りとフォーカシングリングから読み取ることができます。



レンズフード

ライカMレンズには、多彩な機能を持つレンズフードが付属しています。また、一部のレンズには、スライド式レンズフードが組み込まれています。レンズフードは、不必要な光や、直接光のような過度な光だけでなく、雨の滴や指紋からもレンズを効果的に保護します。撮影の際には必ずレンズフードを装着するようにしてください。

旧型レンズの使用

ライカMPには、すべてのライカMレンズが使用できます。ただし、次のレンズを使用するときは、露出計が機能しません：

ホロゴンf8/15mm

スーパーアンギュロンM f4/21mm

スーパーアンギュロンM f3.4/21mm

エルマリートM f2.8/28mm

(製造番号2314920以前のもの)

次のレンズを交換するときは、距離を∞にセットしてください。

DRズミクロンf2 50mm

(近接アタッチメント付き)



カメラの正しい構え方

カメラブレのない、ピントのしっかり合った写真を撮影するには、カメラをできるだけ安定した持ちやすい姿勢で構えてください。ライカMPを適切な「三点支持」の姿勢で構えるには、右手でカメラを持ち、人差し指をシャッターボタンに置いて、親指を予備位置にセットした巻き上げレバーの裏にかけます。ピント合わせを素早く行えるように、左手はレンズを下から支えるか、またはカメラ全体を包み込むようにして持ちます。

カメラを額と頬に押し付ければ、さらに安定感が増します。縦位置で撮影するには、ライカMPを左に回してください。手はそのまま、横位置と同じ位置

に置きます。

あるいは、カメラを右に回しても構いません。この場合は、右手の親指でシャッターボタンを押すと便利かもしれません。

注意

実用的なアクセサリとして、ハンドグリップMをお勧めします。ハンドグリップMを使用すると、ライカMPを携行する際に、手を束縛されずにボディをしっかりと保持することができます（コード番号：14405）。

ブライトフレームファインダー

ライカMPのブライトフレームファインダーは、大型で明るく見やすい高性能ファインダーであるばかりでなく、精度の高い距離計としても機能します。ブライトフレームのサイズは、各焦点距離の最短撮影距離において、23×35mm(スライドフォーマット)の画面サイズに一致します。撮影距離が長くなればなるほど、実際に撮影される範囲は、ブライトフレーム内に見える範囲よりも大きくなります。ライカMPのブライトフレームは、撮影距離と連動してパララックス(レンズとファインダー軸のずれ)を自動的に補正します。フレーム内に見える画面は、0.7mから∞までの撮影範囲で実際に撮影される画面とほぼ一致します。

ライカMPには、ファインダー倍率の異なる、次の3つのモデルが用意されています。

ファインダー倍率が0.72倍のモデルでは、焦点距離28mm(製造番号2411001以後のエルマリート)、35mm、50mm、75mm、90mm、135mmレンズを使用した場合、各レンズに対応するブライトフレームが28+90mm、35+135mm、50+75mmの組合せで、自動的にファインダー内に表示されます。

ファインダー倍率が0.85倍のモデルでは、35mm以上の焦点距離に対応する5種類のフレーム

(90mm、35+135mm、50+75mm)がファインダー内に表示されます。

ファインダー倍率が0.58倍のモデルでは、90mm以下の焦点距離に対応する5種類のフレーム(28+90mm、35mm、50+75mm)がファインダー内に表示されます。

ファインダーの中央には、周囲よりも明るい長方形の形をした測距範囲があります。焦点距離21～135mmのすべてのレンズは、ライカMPに取り付けると距離計に連動します。

露出計をONにすると、ファインダーの底辺に露出計の3点LED、またはバッテリーマークが表示されます。

ピント合わせと露出の設定について、詳しくはそれぞれの関連頁をご覧ください(p.26、p.28)。

注意

ライカMP 0.85では、50mm用ブライトフレームの底辺中央部がファインダー内の表示によって見えなくなります。



35mm
ブライトフレーム

135mm
ブライトフレーム

測距範囲

露出(シャッター/絞り) バランスLED

バッテリーマーク

フレームセクター

ライカMPのファインダーが持つ可能性を広げるのが、フレームセクター(20)です。フレームセクターを切り替えると、使用レンズ以外のブライトフレームをいつでも表示することができます。したがって、レンズを交換すれば撮影結果がよくなるのかどうかすぐに確認することができます。

フレームセクターを外側に(レンズとは反対方向に)倒せば、35mmと135mm用のブライトフレームが表示されます(ライカMP 0.58では、135mm用のブライトフレームは表示されません)。

フレームセクターを真ん中に動かせば、50mmと75mm用のブライトフレームが表示されます。

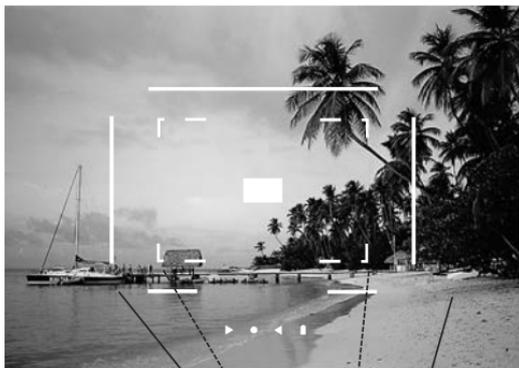
フレームセクターを内側に(レンズの方向に)倒せば、ライカMP 0.58、0.72では28mmと90mm用のブライトフレームが表示され、ライカMP 0.85では90mm用のブライトフレームが表示されます。



35 mm +
135 mm*



*ライカMP 0.58では表示されません



50mm + 75mm



28 mm* +
90 mm



*ライカMP 0.85では表示されません

ピント合わせ

有効基線長の長いライカMPでは、距離計による正確なピント合わせが可能です。こうした点は特に、比較的被写界深度の深い広角レンズを使用する際に有利だといえます。0.85倍の高倍率ファインダーでは、基線長がさらに長くなり、より精度の高いピント合わせが可能です。

	メカニカル基線長 (ファインダーの光軸と距離計窓との距離)	ファインダー倍率	有効基線長
ライカ MP	69,25 mm	x 0,72	≒約49.9mm
0.72	69,25 mm	x 0,85	≒約58.9mm
ライカ MP	69,25 mm	x 0,58	≒約40.2mm

ファインダーの中央に見える、明るく鮮明な長方形の部分が距離計の測距範囲です。仮にファインダー窓(14)を手で覆うと、ブライトフレームと測距範囲しか見えなくなります。ピント合わせは、二重像合致式またはスプリットイメージ式で行います。

二重像合致式ピント合わせ

例えば、ポートレート撮影では、ファインダーの測距範囲を被写体の目に合わせ、目の輪郭が鮮明に見えるまで、フォーカシングリングを回します。次いで、被写体の構図を決定してください。

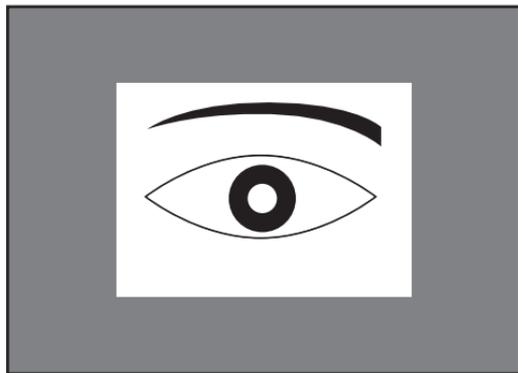
スプリットイメージ式ピント合わせ

例えば、建築写真の撮影では、ファインダーの測距範囲をまっすぐな境界線やその他のはっきりとした垂直線に合わせ、その輪郭が測距範囲の端と端とを結ぶ1本の線になるまで、フォーカシングリングを回します。次いで、被写体の構図を決定してください。

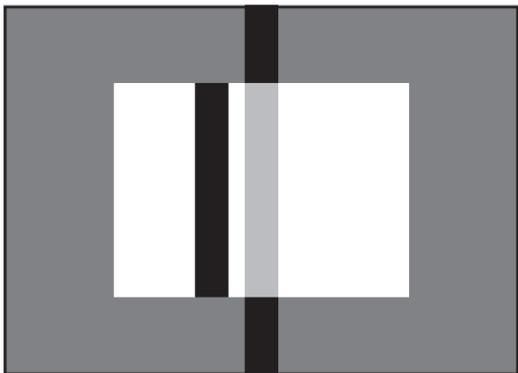
実際、2つの方法には、それほど大きな違いはありません。2つの方法を組み合わせてピント合わせを行えばより効果的でしょう。



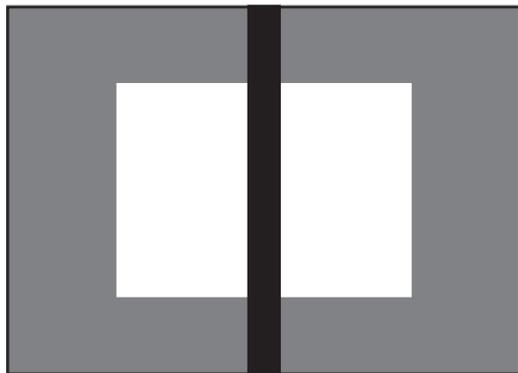
二重像=ピントが外れている



像の合致=ピントが合っている



線のズレ=ピントが外れている



線の合致=ピントが合っている



露出の設定

ライカMPの測光方式は、シャッターの左上に配置されたフォトダイオードが、測光スポットから反射した光を集光レンズで捉える、実絞りによるTTLスポット測光です。測光スポットはシャッター先幕の中央にあります(直径12mm、フィルムフォーマットの約13%に相当)。白いスポットのむらは、製造ミスから生まれたものではありません。厚みのある完璧なコーティングでは、シャッターが正常に機能せず、ゴム引き布幕シャッターに適していないからです。したがって、測光スポットのむらは、決して測光結果に影響することはありません。

適正露出にする為シャッタースピードと絞りを調整し、ファインダー内に表示される3点LED(▶●◀)からなる露出バランスを使用します。設定が適正

になれば、中央の丸いLEDだけが点灯します。

露出計をONにする

シャッタースピードダイヤル(10)が **B/OFF** 以外の位置にあり、シャッターが完全にチャージされていれば(カメラの電源がON)、シャッターリリースボタン(7)を半押しすると、露出計のスイッチはONになります。

三角のLED(▶◀)のいずれか、または同時に中央の丸いLED(●)が点灯すれば、露出計の準備は完了です。

シャッターをリリースせずにシャッターボタンから指を離した場合でも、約14秒間露出計が作動し、LEDは点灯を続けます。

シャッターをリリースすると、露出計はOFFとなり、ファインダー内のLEDは消灯します。

シャッターがチャージされていない場合や、シャッタースピードダイヤルが「**B/OFF**」(カメラの電源がOFF)にセットされている場合は、露出計はOFFになります。

注意

シャッターがチャージされていない場合や、ファインダー内の表示が消灯している場合は、カメラは「スタンバイモード」にあります。

薄暗い場所（測光範囲の限界）では、LEDの点灯まで約0.2秒かかることがあります。

測光範囲を下回る非常に暗い状況では、測光範囲外警告として左の三角LED（左▶）が点滅します。

シャッタースピードと絞りをセットする

露出計のデータに基づいて露出を設定する場合は、シャッターを完全にチャージし、シャッタースピードダイヤル（10）をダイヤルに刻まれた速度のいずれかにセットします。

次に、

1. シャッターボタン（7）を軽く押して（半押し）、露出計のスイッチをONにします。
2. 露出バランスの丸いLED ● だけが点灯するまで、シャッタースピードダイヤルや絞りリング（18）を回します。
適正露出にセットするには、次のように、露出バランスの3点LEDが露出アンダー、露出オーバーを指示する方向に、絞りリングを回します。

- ▶ 1段以上の露出アンダー：絞りリングを右（シャッタースピードダイヤルであれば左）に回します。
- ▶ ● 1/2段の露出アンダー：絞りリングを右（シャッタースピードダイヤルであれば左）に回します。
- 適正露出
- ◀ 1/2段の露出オーバー：絞りリングを左（シャッタースピードダイヤルであれば右）に回します。
- ◀ 1段以上の露出オーバー：絞りリングを左（シャッタースピードダイヤルであれば右）に回します。

バルブ設定／露出計をOFFにする

シャッタースピードダイヤルを **B／OFF** にセットすると、長時間露出が可能です。シャッターボタンを押している間、シャッターは開いたままになります。露出計はOFFになります。

カメラを長時間使用しない場合や、バッグなどに保管する場合は、ダイヤルを **B／OFF** にセットして、必ず電源をお切りください。露出計が自動的にOFFになり、ディスプレイが消灯した後も、スタンバイモードの継続にわずかながら電力が必要です。電源をOFFにすると、こうした電力消費も防ぐことができます。

露出計の測光範囲

室温、標準的な湿度、絞りf1.0の状態、測光範囲は0.03～125000cd/m²。ISO100／21°の場合、これはEV-2～+20、f1.0 4秒～f32 1／1000秒に相当するものです。詳しくはp.33の測光ダイヤグラムをご覧ください。

測光範囲外警告

TTL測光方式のライカMPでは、非常に暗い状況でレンズを絞り込んだ場合、測光範囲外警告として左の三角LED ▶ が点滅します。

このような測光範囲を下回る場合でも、シャッターボタンから指を離した後、約14秒間露出計は作動を続けます。構図の変更や絞りを開くなどして、光の状況がよくなれば、LEDが点滅から点灯へと変わり、露出計を使用することができます。

測光ダイヤグラム(図、p.33)

露出計の測光範囲についてはダイヤグラムの右側を、シャッターと絞りの作動範囲については左側をご覧ください。また、ダイヤグラムの間には、露出値(EV)が示されています。

ダイヤグラムの右側に cd/m^2 (カンデラ毎平方メートル)で示されているのが、露出計の測光範囲です。その上にISO感度で示されているのが、フィルム感度です(SV=フィルム感度値)。ダイヤグラムの左側に秒単位で示されているのが、シャッタースピードです(TV=シャッタースピード)。ダイヤグラムの左隣のコラムには、ライカMPのフォーカルプレーンシャッターの作動範囲が網掛けで示されています。コラムの上の白抜き部分は **B/OFF** 設定に相当します。ダイヤグラムの左下を見れば、絞り値(AV)がわかります。例Aは、フィルム感度、明るさ(輝度)、シャッタースピード、絞りの相関関係を示しています。

例Aを見ると、線はまずフィルム感度(ISO100/21°)から垂直に、輝度を示す水平線との交点まで延びています。この例では、輝度はまぶしい日差しに相当する $4000\text{cd}/\text{m}^2$ です。線はそこから対角線上に、設定絞り値(11)を示す垂直線との交点まで伸び、交点から今度は左へ水平に、シャッタースピード(1/250秒)まで延びています。対角線の

進路からは、露出量がEV15であることが読み取れます。

また、例Bを見ると、蠟燭の光の下($1\text{cd}/\text{m}^2$)、フィルム感度がISO400/27°の条件で、絞り値を1.4にセットするには、シャッタースピードを1/15秒にセットしなければならないことが理解できます。例えば、同じ条件で絞り値を11にセットするには、シャッタースピードをライカMPの作動範囲外である4秒にセットしなくてはなりません。

シャッタースピードダイヤルでは1秒までしかセットできないために、このような場合はカメラの露出計を使用することができません。絞り値を変更するか、ダイヤグラムから適正なシャッタースピードを読み取ってください。

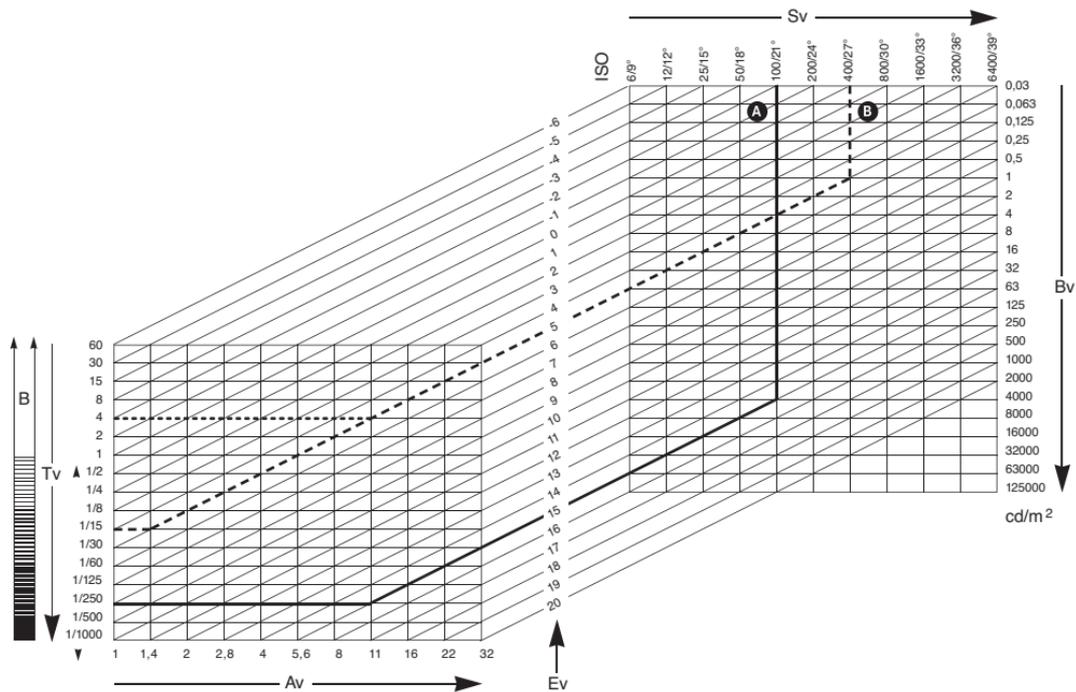
ファインダー上での測光域 (図、p.34～35)

測光域

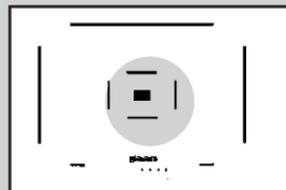
測光域は、使用しているレンズ用のファインダー画像の約13%を占めます。ただし、次の基準値はすべての焦点距離レンズに適用できます。

円形測光域の直径は、使用するブライトフレームの短辺側の約2/3になります。これは、ライカ エルマリート-M f 2.8/135mmのような、ファインダー・アタッチメントを付けたレンズにも適用されます。

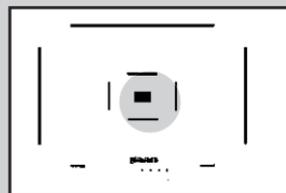
測光ダイヤグラム



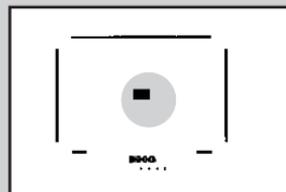
ライカMP
0.58倍ファインダー



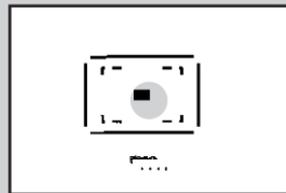
21 mm



28 mm

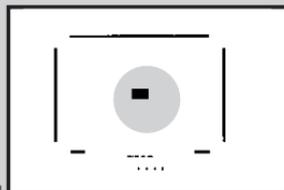


35 mm

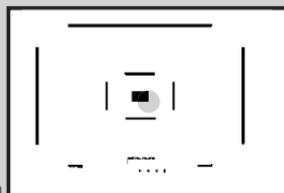


50 mm

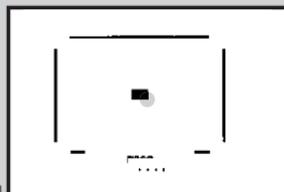
ライカMP
0.58倍ファインダー



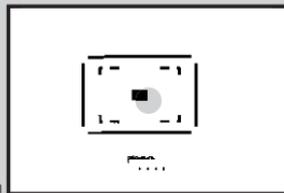
24 mm



90 mm

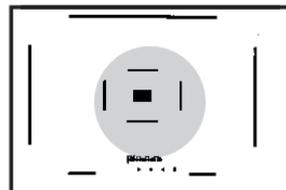


135 mm

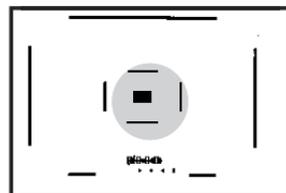


75 mm

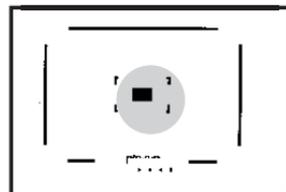
ライカMP
0.72倍ファインダー



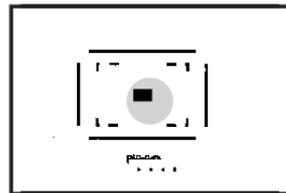
21 mm



28 mm

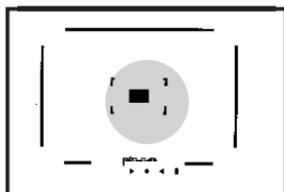


35 mm

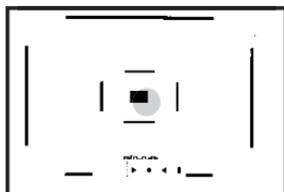


50 mm

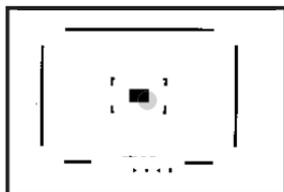
ライカMP
0.72倍ファインダー



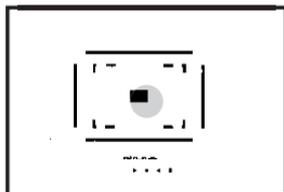
24 mm



90 mm

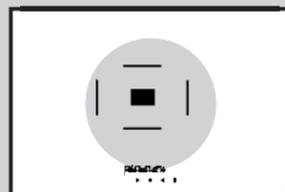


135 mm



75 mm

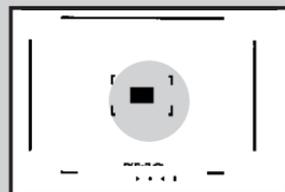
ライカMP
0.85倍ファインダー



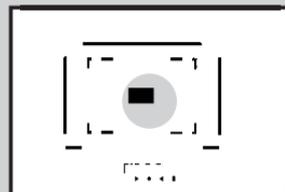
21 mm



28 mm

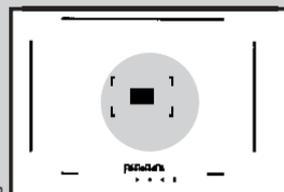


35 mm

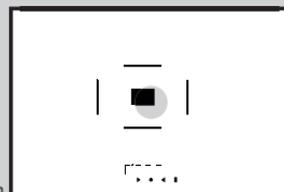


50 mm

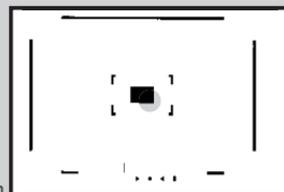
ライカMP
0.85倍ファインダー



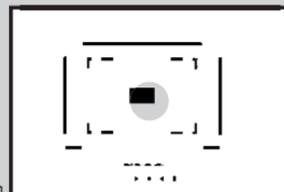
24 mm



90 mm



135 mm



75 mm

露出の設定についての注意

平均的な明るさの被写体では、通常、被写体に当たる光の18%が反射されます。露出計は、このような被写体の平均的な反射率に相当する、グレースケールに合わせて調整されています。

例えば、白い部分の多い雪景色、明るい砂浜、白い壁、ウェディングドレスといった、反射率が18%以上の被写体を撮影する場合には、露出計の指示に従ってシャッタースピードと絞りをセットすると、撮影結果は露出アンダーとなります。

対照的に、黒い部分の多い蒸気機関車、ダークグレーのスレート屋根、ダークブルーのユニフォームといった、反射率が18%以下の被写体を撮影する場合には、露出計の指示に従ってシャッタースピードと絞りをセットすると、撮影結果は露出オーバーとなります。

このような状況で適正露出を得るには、露出計の数値を補正しなくてはなりません。ただし、スポット測光を用いて、平均的な明るさのディテール部分を測定する場合は、露出を補正する必要はありません。例えば、結婚写真では、白いウェディングドレスではなく、花嫁の顔を測定します。また、広角レンズを使って風景写真を撮影する場合は、ライカMPのスポット測光範囲に空の明るい部分が入らないように、カメラを傾けてください。

被写体にこのような平均的な明るさの部分がなければ、シャッタースピードを2~4倍にしたり、絞りを1~2段開けたりするなど、露出補整(倍数)を使用する必要があります。

例えば、日の当たる雪の大地を撮影する場合は、露出倍数は4になります。f/8で1/1000秒であれば、代わりにf8で1/250秒かf4で1/1000秒を使用してください。また、明るい浜辺などのもう少し暗い被写体では、露出倍数は1.5で十分です。逆に、暗い被写体を撮影する場合は、露出量が少なくなるようにセットしてください。

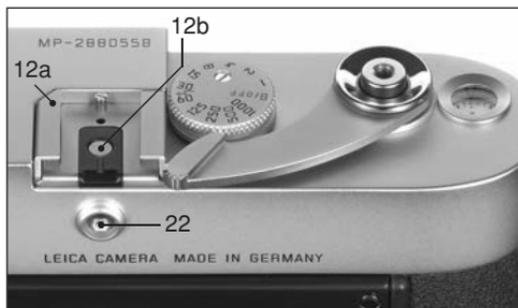


コントラストの強い被写体に対しては、フィルム
のラチチュード(露出寛容度)は、その明暗の
違いを再現できるほど広くありません。被
写体のどの部分を鮮明に再現するかは、
撮影者のお好み次第です。例えば、背
景に露出を合わせて、人物を黒いシル
エットで表現する(露出アンダーにする)
こともできますし、人物に露出を合わ
せて、背景を白く飛ばす(露出オーバー
にする)こともできます。



明部と暗部の測定値から得た平均的な露
出値を用いても、通常はそれぞれの微妙
な明るさの違い(グラデーション: 諧調)
が失われて、満足できない撮影結果に
なります。

また、意図的に露出オーバーや露出アン
ダーに撮影すると、写真の個性が強調
される場合があります。ひとつの表現
主題として効果的に利用してください。



フラッシュモード

ライカMPには、フラッシュ制御機能は搭載されていません。したがって、フラッシュ撮影を行う場合は、フラッシュユニット側で制御（外部調光オート）するか、ガイドナンバー計算により、撮影距離に応じて絞りをセットしなければなりません。フラッシュ撮影で使用できるシャッター速度は、シャッタースピードダイヤル(7)に⚡で印された、フラッシュ同調速度の1/50秒です。特殊な効果を表現するために、バルブ設定 **B/OFF** を含めた1/50秒以下の速度も使用できます。

警告

アクセサリシュー(12a)やシンクローターミナル(22)に接続されたフラッシュユニットは、シャッターがチャージされていない場合でも、シャッターボタンを押すと発光する場合があります。



互換性のあるフラッシュユニット

ボディにフィットするコンパクトなデザインのライカSF20は、ライカMPにも最適なフラッシュユニットです。コンピュータ制御のオートフラッシュ撮影により、簡単な操作性と多彩で魅力的な機能が実現されています。

標準のシンクロ接点(中央接点)を備えたクリップオンタイプのフラッシュユニットであれば、ライカMPに取り付け、中央接点(X接点、12b)によって発光させることができます。最新のサイリスタ制御式電子フラッシュユニットのご使用をお勧めします。

フラッシュユニットの取り付けと接続

ライカMPでは、2種類のフラッシュ接続方式を選択できます。

- クリップオンタイプのフラッシュユニットは、中央接点(シンクロ接点、12b)の付いたアクセサリシュー(ホットシュー、12a)に取り付けます。フラッシュユニットをホットシューに取り付けるときは、フラッシュユニットの取り付け部をホットシューにしっかりと差し込んでください。ロックナットがあれば、ロックナットを締め付けて、フラッシュユニットが不用意に外れないようにしてください。フラッシュユニットがぐらついてしまうと、端子が破損し、フラッシュユニットが発光しなくなる恐れがあります。
- シンクロコードを接続するシンクロターミナル(=X接点、22)は、カメラ背面のホットシューのすぐ下にあります。

ふたつの接点を使って、同時に複数のフラッシュユニットを発光させることもできます。

注意

カメラとフラッシュユニットの電源をOFFにしてから、フラッシュユニットを取り付けてください。フラッシュユニットの使用法とその多彩な機能について、詳しくは各フラッシュユニットの使用説明書をご覧ください。

ライカMPのシステムアクセサリ

交換レンズ

ライカMレンズはスピーディーなスナップ撮影に最適なレンズです。ライカMレンズには、焦点距離21~135mm、開放絞り値f11に至る多彩なレンズがラインナップされています。

フィルター

白黒写真では、色調の再現を調整するためにフィルターを使用します。例えば、様々な色を自然な感じのグレートーンに再現したり、空や雲のコントラストを鮮明に再現したりする場合です。カラー写真では、フィルターを使用して、色再現を撮影者の好みや、フィルムのスペクトル感度に合わせることができません。

現行のライカMレンズには、円偏光フィルターなど、標準のフィルターねじサイズを備えた様々なフィルターを使用することができます。

TTL測光の場合、フィルターによる光の吸収は自動的に補正されます。ただし、フィルム感度が異なれば、フィルムが感光するスペクトル領域も異なるために、色のついたモノクロフィルム用フィルターなどを使用すると、適正露出を得られない場合があります。例えば、一般にオレンジフィルターであれば約+1絞り、赤色フィルターで約+2絞りの補正が必要です。ただし、モノクロフィルムでは、赤感度が著しく異なるために、すべてのフィルムに平均的な露出倍数を適用することはできません。



レンズキャリアーM

レンズキャリアーMは、ボディーの下に交換レンズを取り付けることのできる、実用的なアクセサリです。レンズキャリアーMを使用すれば、交換レンズを気軽に持ち運び、いつでも簡単にレンズを交換することができます。しかも、レンズキャリアーMに取り付けたレンズは、快適なハンドグリップにもなります。レンズキャリアーMは、カメラの三脚ねじ穴に取り付けます(コード番号：14404)。

ビューファインダー21/24/28mm

ビューファインダー21/24/28mmを使用すれば、カメラのファインダーでは対応できない3つの焦点距離レンズのフレーミングが可能です(28mmレンズは、LEICA M4P、M6、M6TTL 0.58/0.72、

M7 0.58/0.72、MP 0.58/0.72で使用できます)。21/24/28mm用フレームの切り替えは、クリック感のあるダイヤルを回して、簡単に行えます。ビューファインダー21/24/28mmは、ライカMPのファインダーに匹敵する高いレベルの光学性能を持ち、眼鏡をかけた方々にも最適なファインダーです。高い拡大率のおかげで、細部まで優れた視認性が実現されています。眼鏡をかけずに使用する場合は、ライカM用の視度補正レンズを取り付けて、視力を補正することができます。接眼部がゴムでコーティングされているために、眼鏡を傷つけることもありません。

ファインダーの本体は、丈夫なアルミ製です。カメラのデザインに合わせて、ブラックとシルバーが用意されています(コード番号：12013/12014)。



ビューファインダー・マグニファイアーM 1.25倍

50mm以上のレンズを使用する際に、ライカ・ビューファインダー・マグニファイアーM 1.25倍を使用すれば、構図決定が驚くほど簡単になります。ライカM型に使用でき、ファインダー画像の中央部が1.25倍に拡大されます(0.58倍ファインダーは0.72倍に、0.72倍ファインダーは0.9倍に、0.85倍ファインダーは1.06倍に拡大)。実際、裸眼でファインダーを覗くのに比べると、わずかながらファインダー画像が大きく見えます。

ファインダー・マグニファイアーを取り付ければ、被写体を快適に見ることができます。特にライカM用の75~135mm望遠レンズを使用する場合に、ファインダー内の画像がより大きくはっきりと見え、ブライトフレーム内で簡単に被写体の細部を確認す

ることができます。また同時に、有効基線長も25%増加し、より正確なフォーカシングや構図選択が可能です。

クリップ付きチェーンを吊り環に引っ掛けておけば、紛失する心配はありません。

ファインダー・マグニファイアーは革製ケース入りです。ケースにはストラップが付属します。カメラの携帯ストラップに取り付けられれば、ファインダー・マグニファイアーを安心して持ち運ぶことができ、必要に応じていつでも取り出すことができます(コード番号：12004)。

視度補正レンズ

視力にあった最適なファインダーにするために、次の視度補正レンズが用意されています：±0.5／1／1.5／2／3ディオプター



ライカモーターM

ライカモーターMを装着すれば、フィルムの自動巻き上げとシャッターチャージを行うことができます。1コマ撮影のほか、毎秒1.5コマまたは3コマの連続撮影が可能です。装着はベースプレートを取り外して行います。

ライカモーターMは、**B**を含む1秒～1／1000秒のすべてのシャッタースピードで使用することができます。ライカモーターMがOFFの場合や、バッテリーが切れている場合には、通常どおりフィルムをマニュアルで巻き上げることができます。ケーブルリリースを使用すれば、遠隔撮影も可能です（コード番号：14408）。



ライカビットM

ライカビットMは、静かにスムーズにフィルムを巻き上げることのできるアクセサリーです。ベースプレートを取り外して、カメラの底に装着します。スイング式の巻き上げレバーを左に動かすだけで、カメラから目を離さずに、フィルムを送ることができ、小刻み巻き上げも可能です。シャッターは通常どおり、カメラのシャッターボタンでリリースし、カメラの巻き上げレバーも使用することができます。

ライカビットMには、カメラのデザインに合わせて、シルバークロームとブラックペイントが用意されています(コード番号：14008/14009)。



巻き戻しクランク

お好みに合わせて、巻き戻しノブに簡単に装着しておける、クリップオン式のクランクです。フィルムの巻き戻しが驚くほど簡単に、素早く行えます。着脱式巻き戻しクランクには、カメラのデザインに合わせて、シルバークロームとブラッペイントが用意されています。(コード番号：14437/14438)。



ハンドグリップM

ハンドグリップMを使用すれば、M5を除くすべてのライカM型を安全かつ快適に保持することができます。カメラの三脚ねじ穴に装着します（オーダー番号：14405）。



ケース

ライカMPには、21～50mmレンズ（f1 50mmを除く）を装着したまま収納することのできる、前面着脱式の革製速写ケースが用意されています。また、より多彩なカメラシステムをお持ちの方々には、カメラのほかにレンズを最大3本まで収納できるクラシックなコンビネーションバッグや、カメラのほかにレンズを最大5本まで収納できるユニバーサルケースをご利用いただけます。

カメラとレンズのお手入れについて

ライカを長期間使用しない場合は、バッテリーを取り外して、乾燥した風通しのよい場所に保管してください。元箱には保管せず、カメラ等が湿気やなめし剤の残留によって損傷しないように注意してください。高温で湿度の高い熱帯気候の中で使用する際は、カビを防ぐために、カメラ等の機材をできるだけ外気にさらしてください。シリカゲルなどの乾燥剤を使用するのであれば、気密性の高い箱に保管することをお勧めします。どんな汚れも微生物を育む温床になることがありますのでカメラ等の機材は常にきれいにしておいてください。

機械的に作動する部分やスライド面にはすべて潤滑油が施されています。長期間カメラを使用しない場合は、この点に注意してください。潤滑油を施した部分がべとつかないように、約3か月ごとにフィルムを装填せずにシャッターをチャージして、すべてのシャッタースピードでレリーズを繰り返してください。

また、フレームセレクトターなど、その他すべての動作部分も繰返し動かしていただくことをお勧めします。レンズのフォーカシングリングや絞りリングも、時々、動かしてください。

カメラの前面に強い日光が当たると、レンズは集光レンズのように機能しカメラにダメージを与えます。そのため、カメラを保護せずに、強い日光にあてないようにしてください。レンズキャップを取り付け、カメラを日陰やケースに入れておくと、カメラ内部の損傷を防ぐことができます。

汚れや指紋等を取り除くには、カメラやレンズを清潔な糸屑の出ない布で拭きます。カメラ本体の手の届かない部分に付いたひどい汚れは、小さなブラシで取り除きます。カメラ本体の掃除には液体洗剤を使用しないでください。例えばフィルムガイドやミラーなど、カメラ内の汚れやほこりは、エーテルを何度か染み込ませ、乾燥させた柔らかい毛のブラシで丁寧に除去してください。お手入れの際は、ブラシの取っ手などでシャッター幕を傷つけないように注意してください。

外側のレンズ・エレメントの塵を取り除く程度であれば、柔らかい毛のブラシで充分です。ただし、さらにしつこい汚れの場合は、異物を含まない、清潔な柔らかい布を使用してください。内側から外側に円を描くようにていねいに拭き取ります。保護ケース等に付属するマイクロファイバークロスの使用をお勧めします(カメラ店や光学機器取扱店でもご購入いただけます)。この布は40℃以下の水で洗って、繰り返しご使用いただけます(柔軟仕上げ剤は使用せず、アイロンはかけないでください)。化学物質の染み込んだ眼鏡拭きクロスは、レンズを損傷する恐れがありますので絶対に使用しないでください。

砂浜や海岸などの好ましくない状況下での使用では、無色のUVaフィルターを使って、レンズを保護してください。ただし、他のフィルター同様、逆光やコントラストの高い状況では、レンズに有害な反射光(フレア)が発生する恐れがあるので注意してください。また、レンズに指紋や雨の滴が付かないように、レンズフードの使用をお勧めします。カメラやレンズのシリアルナンバーは控えておいてください。シリアルナンバーは、カメラを紛失した際に極めて重要な手掛かりとなります。

索引

アクセサリー	40	スプリットイメージ式ピント合わせ	26
－ケース	45	－二重像合致式ピント合わせ	26
－視度補正レンズ	43	測光範囲	30
－交換レンズ	40	－測光ダイヤグラム	31／33
－フィルター	40	－測光範囲外警告	30
－バンドグリップM	45	－シャッタースピードと絞りをセットする	29
－ライカピットM	44	－露出計をOFFにする	30
－モーターM	43	－露出計をONにする	28
－巻き戻しクランク	44	テクニカルデータ	50
－ビューファインダー21／24／28mm	41	バッテリー	7
－ビューファインダー		－バッテリーチェック	8
マグニファイアM 1.25倍	42	－互換性のあるバッテリー	7
カメラとレンズのお手入れについて	46	－バッテリーの装填と交換	7
携帯ストラップの取り付け方	6	－電池の取り扱いについて	9
シャッター、シャッターボタンと		被写界深度目盛り	19
テクニカルデータ参照	10／50	ピント合わせ	26
シャッタースピードダイヤル	10	－被写界深度	19
シャッタースピードと絞りの組合せ、露出の設定と		－測距範囲	26／34～35
測光ダイヤグラム参照	19／31／33	－フォーカシングリング	18
修理／ライカ・カスタマーサービス	53		

ファインダー	22	ライカMレンズ	17
-外付けファインダー	41	-レンズの取り付け/取り外し	16/17
-ブライトフレーム	22	-構造	17~19
-表示	5/29	-旧型レンズの使用	20
フィルター	40	レンズフード	20
フィルム	12	露出の設定についての注意	36
-装填	13	-ファインダーの測光範囲	32/34~35
-フィルム感度	15	露出/露出計	28
-設定	15	-バルブ設定	30
-設定範囲	16		
-フィルムの巻き戻しと取り出し	14		
-ブライトフレームファインダー	22		
-フラッシュモード	38		
-同調速度	38		
-カメラの正しい構え方	21		
-フレームセレクター	24		
-巻き上げレバー	11		
-ライカアカデミー	52		
-ライカ・インフォメーションサービス	53		
-ライカカメラ社のホームページ	53		

テクニカルデータ

型式 メカニカル制御式シャッター搭載35mmレンジファインダーカメラ

レンズマウント ライカMバヨネット

レンズシステム ライカMレンズ21~135mm

測光 実絞りによるTTLスポット(中央部分)測光

測光方式 シャッター先幕中央の測光スポットに反射した光を測定、測光スポットの直径は12mm、フィルムフォーマットの約13%、視野フレーム短辺の約1/2が直径

測光範囲 (ISO100/21°)室温、標準的な湿度、絞りf1.0の状態で、0.03 cd/m²~125000 cd/m²、ISO100/21°の場合、EV-2~+20、f1、4秒~f32、1/1000秒に相当、測光範囲外警告として、ファインダー底辺部の左の三角LED が点滅

周辺光用フォトセル (定常光測定) 集光レンズ付きシリコンフォトダイオード、カメラのバヨネット背後左上に位置

フィルム感度の設定範囲 マニュアル設定ISO6/9°~ISO6400/39°

露出モード シャッタースピードと絞りのマニュアル設定、調整には露出バランスLEDを使用

フラッシュ測光の制御

フラッシュユニットの接続 中央シンク口接点の付いたアクセサリースュー(ホットシュー)、標準タイプのシンク口ターミナル

同調 先幕シンク口

フラッシュ同調速度 $\frac{1}{4}$ = 1/50秒、1/50秒以下のシャッタースピードも使用可

フラッシュ測光 フラッシュユニットによるコンピュータ制御(外部調光オート)、ガイドナンバー計算に基づくマニュアルによる設定

ファインダー

ファインダー方式 ブライトフレーム式ファインダー、パララックス自動補正

接眼部 -0.5ディオプターに設定、補正レンズ(-3~+3ディオプター)取付け可

フレームの切替え 次の組合せでブライトフレームを表示: 28mmと90mm(ライカMP0.85では90mmのみ)、35mmと135mm(ライカMP0.58では35mmのみ)、50mmと75mm: レンズの装着と同時に自動表示、フレームセクターによって任意のフレームを表示可

パララックス補正 撮影距離に応じて、ファインダーとレンズの視差を自動補正、ブライトフレームの範囲が自動的に撮影範囲と一致

ファインダー画像とフィルム画像 ブライトフレームのサイズは、各焦点距離の最短撮影距離において23×35mmの画像サイズに一致。無限遠では、焦点距離に応じて、フィルム画像がブライトフレーム内に見える範囲よりも約9%(28mm)~23%(135mm)大きい

ファインダー倍率

ライカMP0.58: 0.58x、ライカMP0.72: 0.72x、ライカMP0.85: 0.85x

距離計 スプリットイメージおよび二重像合致式レンジファインダー、ファインダー画像の中央に測距範囲

有効基線長 ライカMP0.58: 40.2mm(メカニカル基線長 69.25mm×ファインダー倍率0.58x)、ライカMP0.72: 49.9mm(メカニカル基線長69.25mm×ファインダー倍率0.72x)、ライカMP0.85: 58.9mm(メカニカル基線長69.25mm×ファインダー倍率0.85x)

各種表示

ファインダー バッテリーマーク、露出バランスの3点LED(▶●◀())、三角のLEDが絞りリングを調整する方向を指示

バックドア フィルム感度(ISO)ダイヤル

シャッターとシャッターボタン

シャッター: 水平走行式ゴム引き布幕フォーカ
ルプレーンシャッター: 極めて静かな作動音、メカニカル制御式

シャッタースピード 1秒~1/1000秒(中間速度不可)、**B**(バルブ、長時間露出)、フラッシュ同調速度(1/50秒)
シャッターボタン 2段階: 露出計のスイッチON-リリース、ケーブルリリース用標準ねじ穴付き

フィルム給送

装填 ベースプレートとバックドアを開き、マニュアルで装填
フィルム送り 巻き上げレバーまたはライカビットMによる手動、モーターMによる電動式

巻き戻し カメラ前面の巻き戻し解除レバーを**R**にセット、

巻き戻しノブによる手動、アクセサリとして着脱式巻き

戻しクランクも利用可

フィルムカウンター トッププレートに位置、ベースプレートを取り外すと自動的にリセット

カメラ本体

材質 開閉式バックドア付き密閉型金属ボディ、プラスチックトッププレートとベースプレート、ブラッパイントまたはシルバークローム仕上げ

フレームセクター レンズを交換せずにブライトフレームをマニュアルで切替え可(フレーミングの比較等に使用)
三脚ねじ穴: A 1/4(1/4インチ)、ベースプレートに位置

バックドア フィルム感度(ISO)ダイヤル

作動電圧 3V

電源 酸化銀ボタン電池2個(PX76/SR44)またはリチウム電池1個(DL1/3N)、バッテリーチェック: 露出バランスLED+バッテリーマーク点灯(第一段階)-露出バランスLED消灯(第二段階)-露出バランスLED+バッテリーマーク消灯(第三段階)

寸法(幅×奥行×高さ) 138mm×38mm×77mm

重量 585g(バッテリーを除く)

その他のライカ製品

双眼鏡とスポッティングスコープ

デュオビット、トリノビットシリーズの双眼鏡やレンズマスター、ピンマスターシリーズのレーザー距離計、テレビットシリーズのフィールドスコープのとりわけ優れた点は、世界的に有名なライカレンズと同じ高性能ガラスから作られた、優れた光学レンズにあります。その卓越した光学性能と高い解像力、明るさにより、コントラストの乏しい状況でも、極めて鮮明な画像をご覧いただけます。

ライカアカデミー

ライカは、写真機材から観測機器に至るあらゆる高性能製品の製造に携わるだけでなく、そのサービスの一環としてライカアカデミーを主催しています。ライカアカデミーでは、長年にわたり、実践的なセミナーやトレーニングコースを開催し、写真、映像分野の専門知識を、初心者から上級者も含めた熱心な写真愛好家の皆さまに提供してまいりました。ゾルムスの本社工場やその近郊のグート・アルテンベルクにある最新の研修施設において、当社の経験豊かなスタッフによって実施されるコース内容には、一般的な写真技術から専門的な写真分野までが含まれます。参加者には、数多くの実践的アドバイス、知識、支援が提供されています。セミナーの最新プログラムならびに詳細につきましては、下記までお問い合わせください。

Leica Camera AG

Leica Academy

Oskar-Barnack-Straße 11

35 606 Solms Germany

Tel: +49 (0) 6442 208 421

Fax: +49 (0) 6442 208 425

E-mail: la@leica-camera.com

ライカカメラ社のホームページ

各種製品、ニュース、イベント、会社情報等に関する最新情報は、ライカカメラ社のホームページにてご覧いただけます。

<http://www.leica-camera.com>

ライカ・インフォメーションサービス

ライカ製品に関する技術的な疑問等がございましたら、ライカ・インフォメーションサービスがお電話、お手紙、ファックス、電子メールにてお答えいたします。

Leica Camera AG
Information Service

Postfach 1180

D35599 Solms Germany

Tel: +49(0)6442 208 111

Fax: +49(0)6442 208 339

e-mail: info@leica-camera.com

ライカ・カスタマーサービス

ライカ製品のメンテナンスや修理が必要な場合は、下記のカスタマーサービスセンター、または各国のサービス機関までお問い合わせいただくか(住所録に関しましては、保証書をご覧ください)、お近くのライカ正規代理店までお尋ねください。

Leica Camera AG

Customer Service

Oskar-Barnack Str. 11

D35606 Solms Germany

Tel: +49(0)6442 208 189

Fax: +49(0)6442 208 339

E-Mail: customer.service@leica-camera.com